

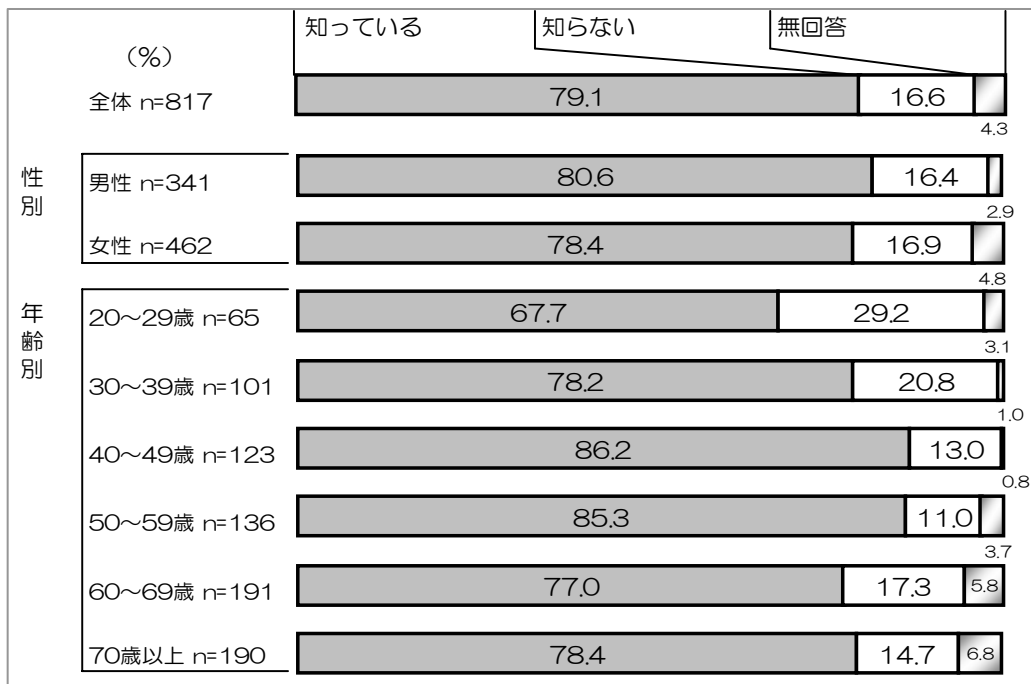
9 同和問題

(1) 同和地区や同和問題について知っているか

問16

あなたは「同和地区」(部落)と呼ばれている地区があること、あるいは「同和問題」「部落差別」とかいわれることがあるのを知っていますか。

約8割の人は同和問題を「知っている」。しかし20歳代は7割に届かない。



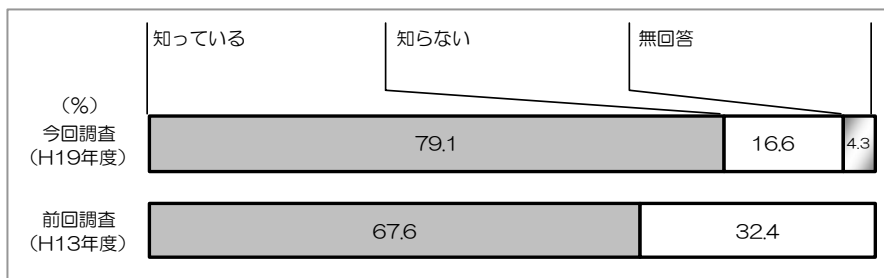
【全体】

「知っている」は79.1%と「知らない」(16.6%)を大きく上回る結果です。

【年齢別】

20歳代では「知っている」が67.7%と周知度が低くなっています。

前回調査との比較

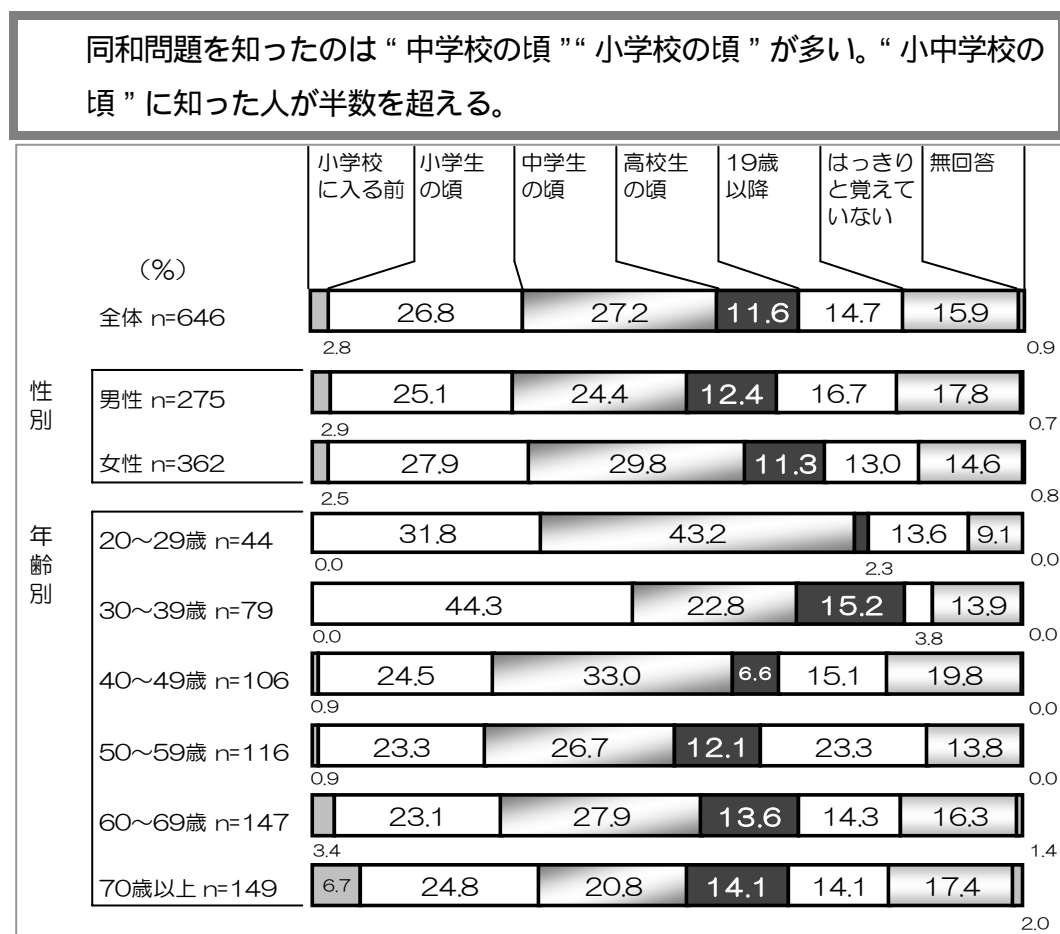


前回調査は無回答を除いた集計。

「知っている」は前回調査で67.6%、今回調査で79.1%と11.5ポイント上昇しました。

(2) 同和地区や同和問題について知った時期

問17 あなたが、同和地区や同和問題についてはじめて知ったのはいつの頃ですか。



【全体】

前問で同和問題を「知っている」と回答した人（646人）について、同和問題を知った時期は「中学生の頃」（27.2%）、「小学生の頃」（26.8%）、「はっきりと覚えていない」（15.9%）、「19歳以降」（14.7%）、「高校生の頃」（11.6%）、「小学校に入る前」（2.8%）の順となっており、“小中学校の頃”が合わせて54.0%と半数を超えています。

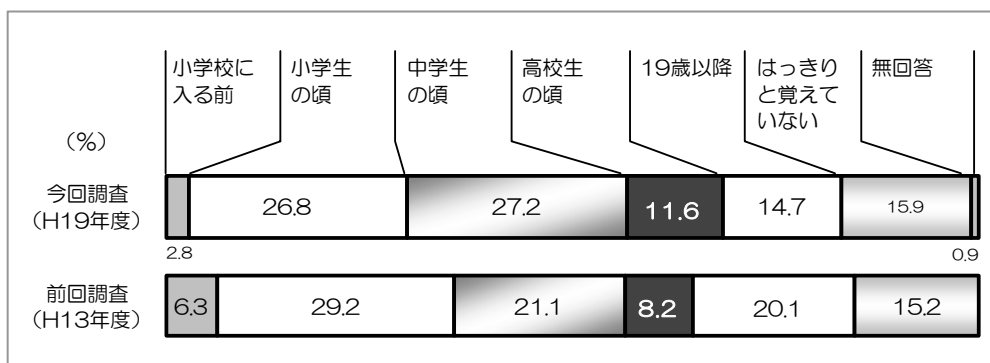
【性別】

女性で「中学生の頃」が29.8%と男性（24.4%）をやや上回っており、「小学校の頃」（27.9%）と合わせ、女性の方が同和問題を知った年齢が低い結果となります。

【年齢別】

20歳代（43.2%）、40歳代（33.0%）で「中学生の頃」が高く、30歳代では「小学生の頃」（44.3%）が高くなっています。

前回調査との比較



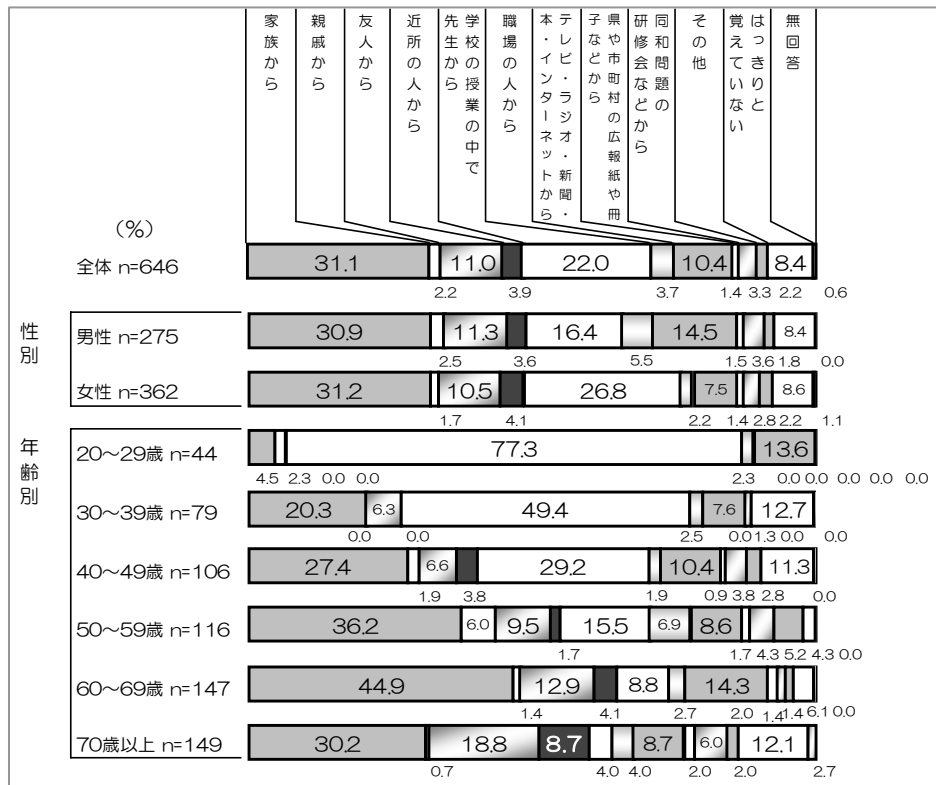
前回調査は無回答を除いた集計。

「19歳以降」（前回調査 20.1%、今回調査 14.7%）では前回調査を下回り、一方、「中学生の頃」（前回調査 21.1%、今回調査 27.2%）では前回調査を上回っており、総体的には中高生で知った割合が増加しています。

(3) 同和地区や同和問題について知ったきっかけ

問18 あなたが、同和地区や同和問題についてはじめて知ったきっかけは何からですか。

同和地区や同和問題を知ったきっかけは、全体では「家族から」が最も多く、友人等も含め身近な人から同和問題を知った人が半数を超える。40歳代以下では“学校の授業”、50歳以上では“家族”が多い。



(単位:人、%)

	合計	家族から	親戚から	友人から	近所の人から	先生からの学校の授業の中で	職場の人から	テレビ・ラジオ・新聞・本・インターネットなどから	同和問題の研究会などから	県や市町村の広報紙や冊子などから	その他	はっきりと覚えていない	無回答	
全体	646	31.1	2.2	11.0	3.9	22.0	3.7	10.4	1.4	3.3	2.2	8.4	0.6	
性別	男性	275	30.9	2.5	11.3	3.6	16.4	5.5	14.5	1.5	3.6	1.8	8.4	0.0
	女性	362	31.2	1.7	10.5	4.1	26.8	2.2	7.5	1.4	2.8	2.2	8.6	1.1
年齢別	20~29歳	44	4.5	2.3	0.0	0.0	77.3	2.3	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30~39歳	79	20.3	0.0	6.3	0.0	49.4	2.5	7.6	0.0	1.3	0.0	12.7	0.0
	40~49歳	106	27.4	1.9	6.6	3.8	29.2	1.9	10.4	0.9	3.8	2.8	11.3	0.0
	50~59歳	116	36.2	6.0	9.5	1.7	15.5	6.9	8.6	1.7	4.3	5.2	4.3	0.0
	60~69歳	147	44.9	1.4	12.9	4.1	8.8	2.7	14.3	2.0	1.4	1.4	6.1	0.0
	70歳以上	149	30.2	0.7	18.8	8.7	4.0	4.0	8.7	2.0	6.0	2.0	12.1	2.7

【全体】

「家族から」(31.1%)が最も高く、次いで「学校の授業の中で先生から」(22.0%)、「友人から」(11.0%)、「テレビ・ラジオ・新聞・本・インターネットなどから」(10.4%)の順で続いています。このほか、「近所の人から」(3.9%)、「職場の人から」(3.7%)、「同和問題の研修会などから」(3.3%)、「親戚から」(2.2%)、「県や市町村の広報紙や冊子などから」(1.4%)などとなっています。

これにより、家族や親族、友人、近所の人、職場の人など“親しい間柄”によるものが51.9%と半数を超えています。

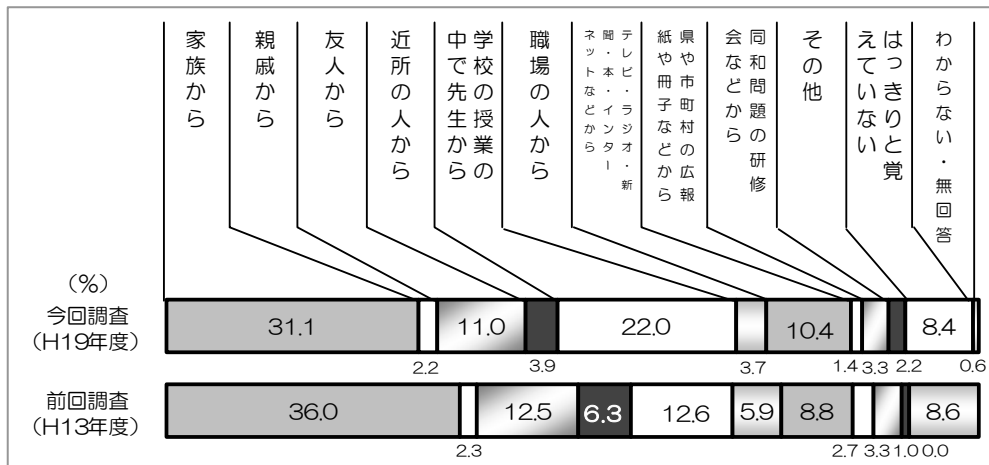
【性別】

「学校の授業の中で先生から」が男性で16.4%に対し、女性では26.8%と女性が上回っています。

【年齢別】

40歳代以下では「学校の授業の中で先生から」が最も高く、50歳以上では「家族から」が最も高いほか、「友人」など身近な人が多くなっています。

前回調査との比較<参考>



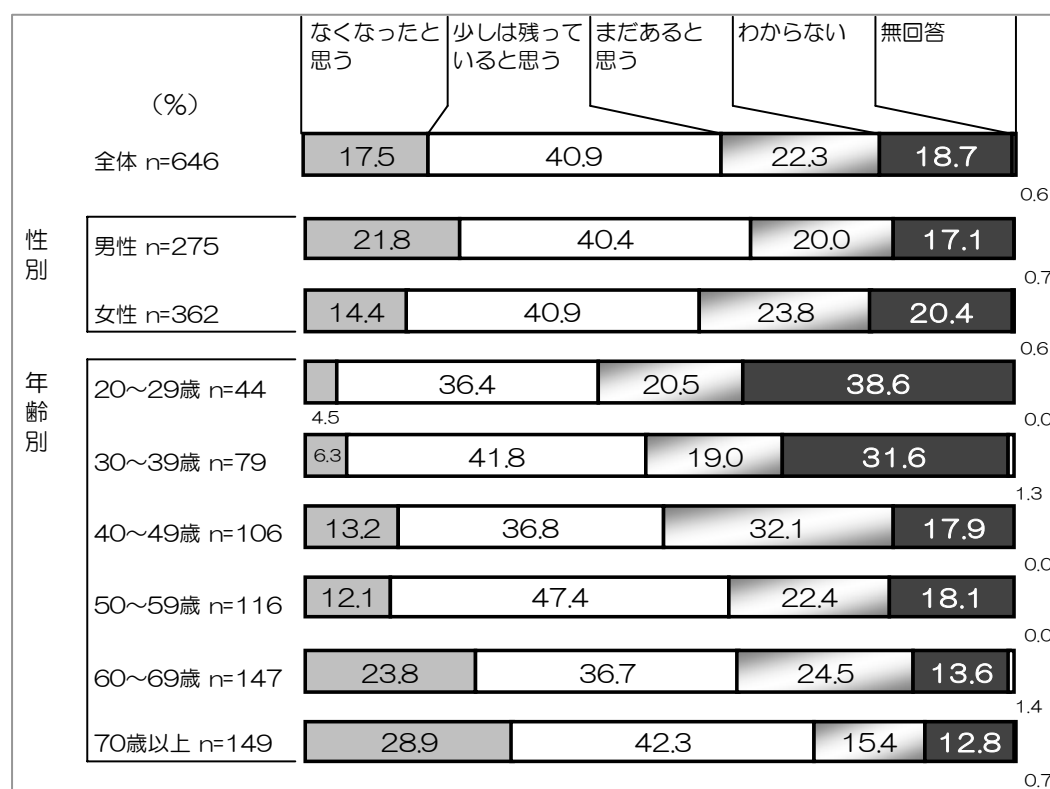
前回調査は無回答を除いた集計。

前回調査では「はっきり覚えていない」の選択肢がないため、正確な比較はできませんが、前回調査を上回ったものは「学校の授業の中で先生から」(前回調査12.6%、今回調査22.0%)です。

(4) 同和問題にかかわる差別

問19 あなたは、同和問題にかかわる差別はなくなったと思いますか。

同和問題の差別は「少しは残っている」が4割でトップ。「まだある」を併せ、“残っている”とするのは6割を超える。
概ね年齢が上がるほど「なくなった」とする人が多い。



【全体】

「少しは残っていると思う」(40.9%)が最も高く、「まだあると思う」(22.3%)、「なくなったと思う」(17.5%)の順となっており、“残っている”(「少しは残っていると思う」と「まだあると思う」の合計)は63.2%にのぼり、「なくなったと思う」(17.5%)を大きく上回っています。「わからない」は18.7%です。

【性別】

「なくなったと思う」は男性21.8%と、女性(14.4%)を上回っています。

【年齢別】

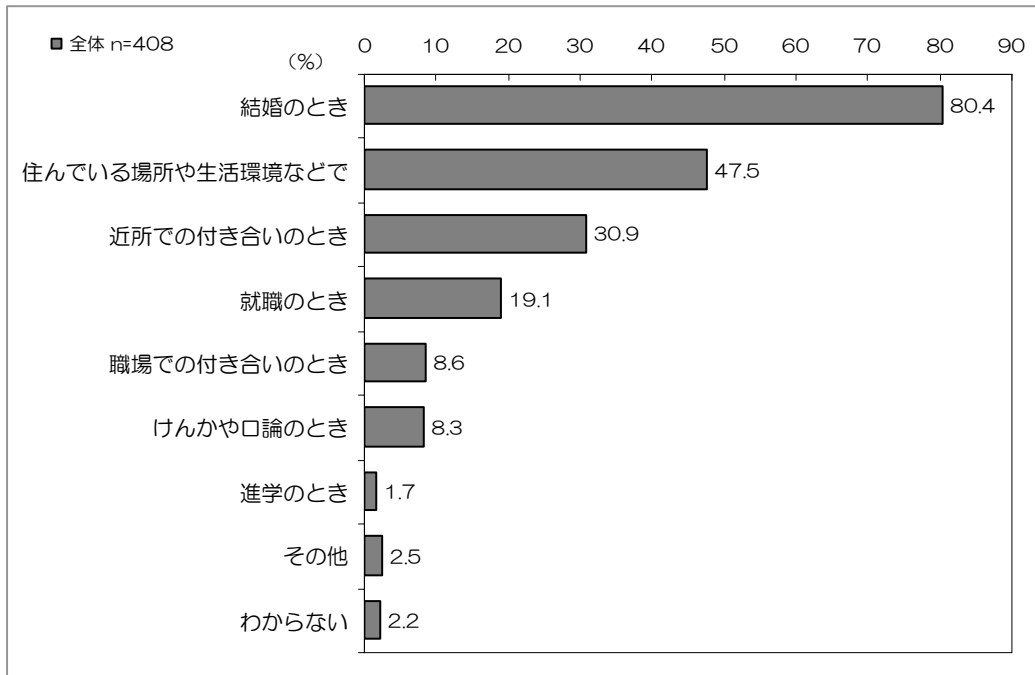
概ね年齢が上がるほど「なくなったと思う」が高くなり、70歳以上では28.9%と全年代のトップです。

(5) 同和問題にかかわる差別を感じるとき

問20

問19で「2. 少しは残っていると思う」、「3. まだあると思う」と答えた方にお聞きします。同和問題にかかわる差別は、どのようなときやどのようなことであると思いますか。【複数回答】

同和問題の差別を感じるのは、圧倒的に「結婚のとき」で8割にのぼる。



(単位: 人、%)

		合計	結婚のとき	進学の時	就職のとき	近所での付き合いのとき	職場での付き合いのとき	けんかや口論のとき	住んでいる場所や生活環境などで	その他	わからない	無回答
全体		408	80.4	1.7	19.1	30.9	8.6	8.3	47.5	2.5	2.2	2.9
性別	男性	166	78.3	0.6	24.1	28.9	9.6	10.2	45.2	3.0	1.8	1.8
	女性	234	83.3	2.6	16.2	31.6	7.3	6.0	49.1	2.1	2.1	3.8
年齢別	20～29歳	25	88.0	4.0	36.0	20.0	4.0	0.0	40.0	0.0	0.0	4.0
	30～39歳	48	70.8	2.1	27.1	33.3	10.4	12.5	47.9	0.0	0.0	4.2
	40～49歳	73	80.8	1.4	17.8	37.0	8.2	6.8	50.7	2.7	0.0	5.5
	50～59歳	81	75.3	2.5	17.3	27.2	4.9	8.6	40.7	6.2	3.7	2.5
	60～69歳	90	81.1	1.1	16.7	26.7	8.9	10.0	45.6	1.1	4.4	1.1
	70歳以上	86	89.5	1.2	16.3	33.7	10.5	7.0	57.0	2.3	1.2	2.3

【全体】

前問で「少しは残っていると思う」「まだあると思う」と回答した人（408人）にどのようなとき、どのようなことかと聞いたところ、「結婚のとき」が80.4%で圧倒的に多く挙げられました。

次いで、「住んでいる場所や生活環境などで」（47.5%）、「近所での付き合いのとき」（30.9%）、「就職のとき」（19.1%）、「職場での付き合いのとき」（8.6%）、「けんかや口論のとき」（8.6%）、「進学のとき」（1.7%）の順となっています。

【性別】

「結婚のとき」については男性78.3%、女性83.3%と女性が上回り、「就職のとき」については男性24.1%、女性16.2%と男性が上回っています。

【年齢別】

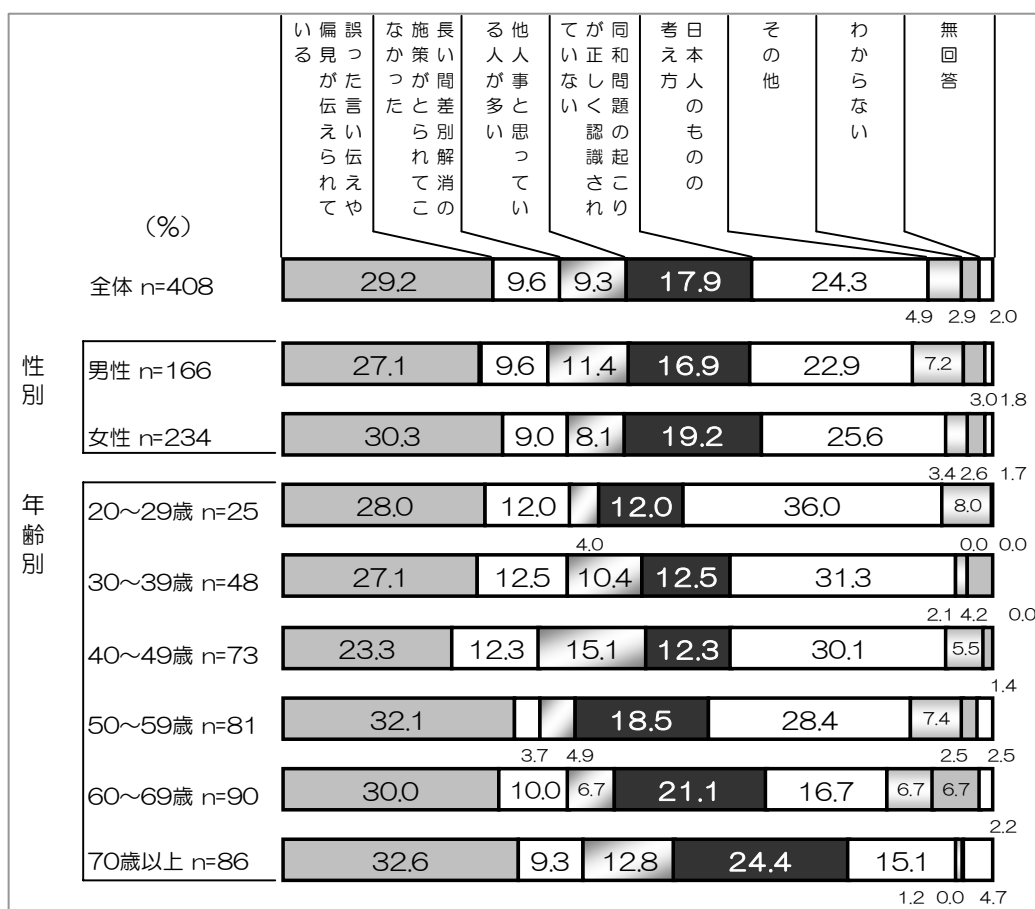
20歳代では「就職のとき」が36.0%で高く、「近所での付き合いのとき」が20.0%で低くなっています。

(6) 同和問題の差別がなくなる原因

問21

問19で「2. 少しは残っていると思う」、「3. まだあると思う」と答えた方にお聞きします。同和問題にかかわる差別が、今でもなくなる原因はどのようなことだと思いますか。

同和問題差別がなくなる原因は、“誤った言い伝えや偏見”が最も多く、“日本人の考え方”が続く。“正しく認識されていない”が第3位。40歳代以下は“日本人の考え方”、50歳以上は“誤った言い伝えや偏見”。



【全体】

前問で「少しは残っていると思う」「まだあると思う」と回答した人（408人）に差別がなくなる原因を聞いたところ、「誤った言い伝えや偏見が伝えられている」（29.2%）が最も高く、次いで「日本人のものの考え方」（24.3%）、「同和問題の起りが正しく認識されていない」（17.9%）、「長い間差別解消の施策がとられてこなかった」（9.6%）、「他人事と思っている人が多い」（9.3%）などの順となっています。

その他の意見では、「科学的根拠のない問題」「かかわりたくないという意識」「同和問題を利用したえせ同和行為が問題」がありました。

また、「同和問題を取り上げることが問題」「凝視英施策が逆差別」「活動団体にも問題」といった意見もありました。

【年齢別】

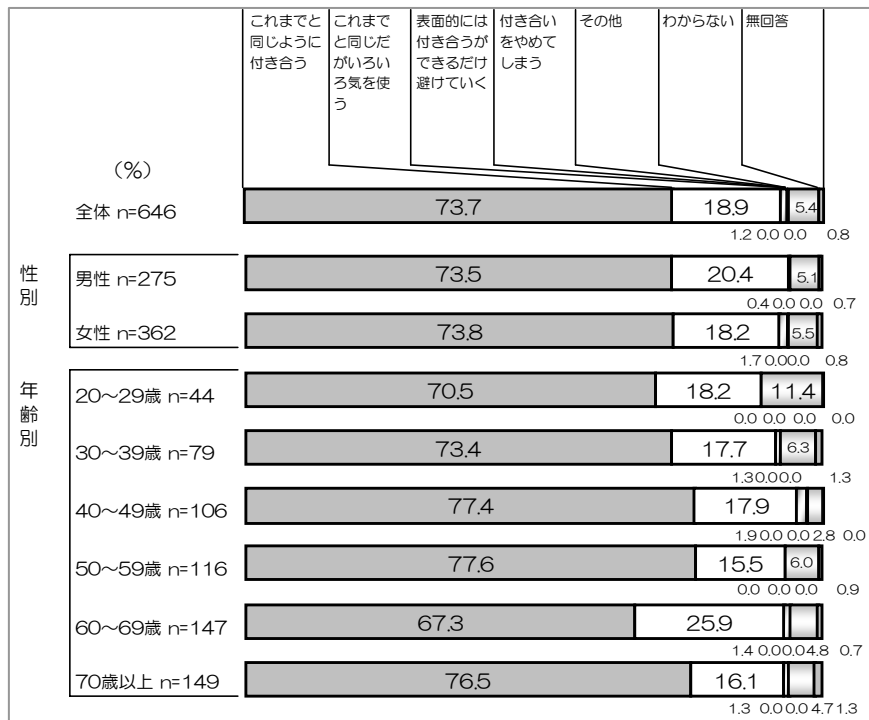
40歳代以下で「日本人のものの考え方」、50歳以上で「誤った言い伝えや偏見が伝えられている」が最も高くなっています。

(7) 親しくしている人が同和地区出身であると知った場合

問22

日頃から親しく付き合っている職場の人や、近所の人と同和地区出身の人であることがわかったときどうしますか。

同和地区出身であるとわかって、「これまでと同じように付き合う」が7割強で圧倒的多数。



(単位:人、%)

	合計	これまでと同じように付き合う	これまでと同じだがいろいろ気を使う	表面的には付き合うができるだけ避けていく	付き合いをやめてしまう	その他	わからない	無回答	
全体	646	73.7	18.9	1.2	0.0	0.0	5.4	0.8	
性別	男性	275	73.5	20.4	0.4	0.0	0.0	5.1	0.7
	女性	362	73.8	18.2	1.7	0.0	0.0	5.5	0.8
年齢別	20~29歳	44	70.5	18.2	0.0	0.0	0.0	11.4	0.0
	30~39歳	79	73.4	17.7	1.3	0.0	0.0	6.3	1.3
	40~49歳	106	77.4	17.9	1.9	0.0	0.0	2.8	0.0
	50~59歳	116	77.6	15.5	0.0	0.0	0.0	6.0	0.9
	60~69歳	147	67.3	25.9	1.4	0.0	0.0	4.8	0.7
	70歳以上	149	76.5	16.1	1.3	0.0	0.0	4.7	1.3

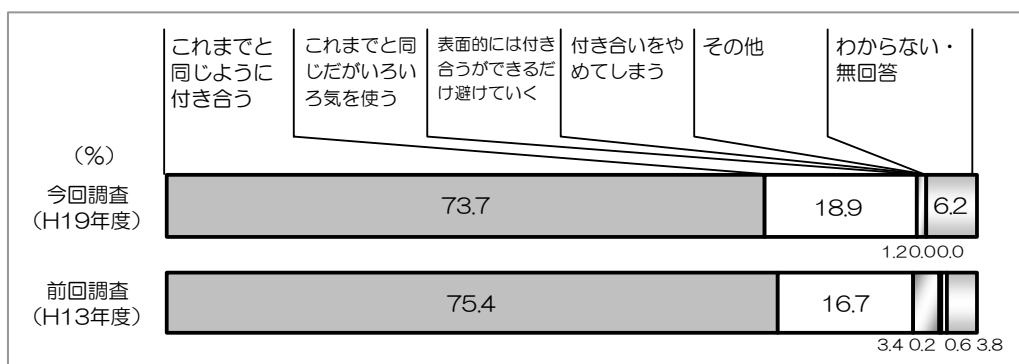
【全体】

「これまでと同じように付き合う」(73.7%) が他を引きはなして圧倒的多数となっています。次いで「これまでと同じだがいろいろ気を使う」が 18.9%、「表面的には付き合うができるだけ避けていく」が 1.2%、「わからない」が 5.4%です。

【年齢別】

60 歳代では「これまでと同じだがいろいろ気を使う」(25.9%)、20 歳代では「わからない」(11.4%) が顕著です。

前回調査との比較



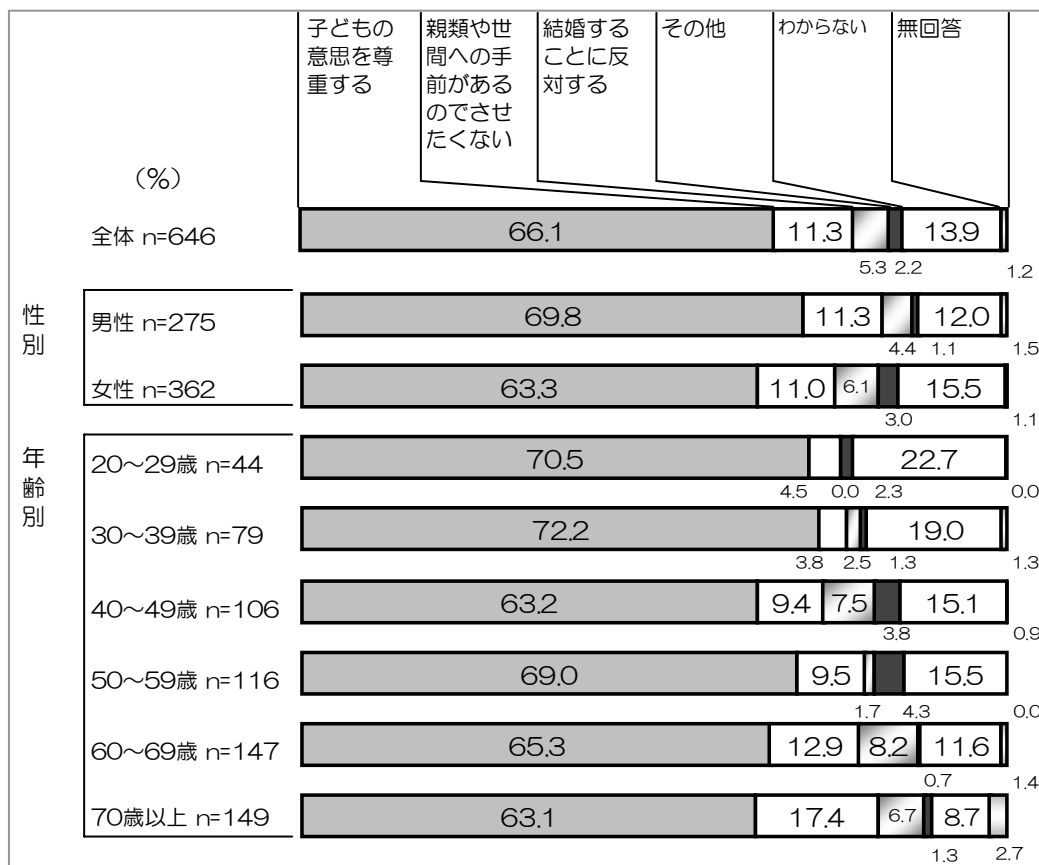
前回調査は無回答を除いた集計。

前回調査、今回調査ともに「これまでと同じようにつき合う」(前回調査 75.4%、今回調査 73.7%) が7割を超えています。

(8) 子どもの結婚相手が同和地区出身の場合

問23 あなたにお子さんがいるとして、その結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、どうしますか。

結婚相手が同和地区出身の場合、3人に2人は「子どもの意思を尊重する」。



【全体】

「子どもの意思を尊重する」が66.1%と最も高く、次いで「親類や世間への手前があるのさせたくない」(11.3%)、「結婚することに反対する」(5.3%)となっています。「わからない」は13.9%です。

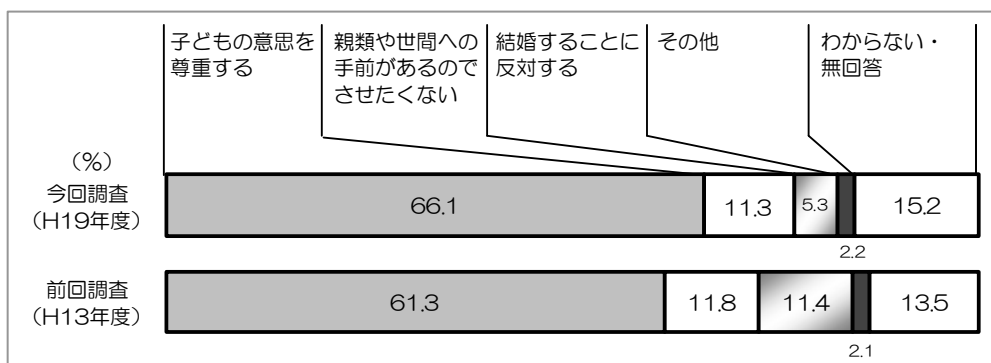
【性別】

「子どもの意思を尊重する」は男性で69.8%と、女性(63.3%)をやや上回ります。

【年齢別】

70歳以上で「親類や世間への手前があるのさせたくない」、30歳代以下で「わからない」と回答を保留する人が、やや多くなっています。

前回調査との比較



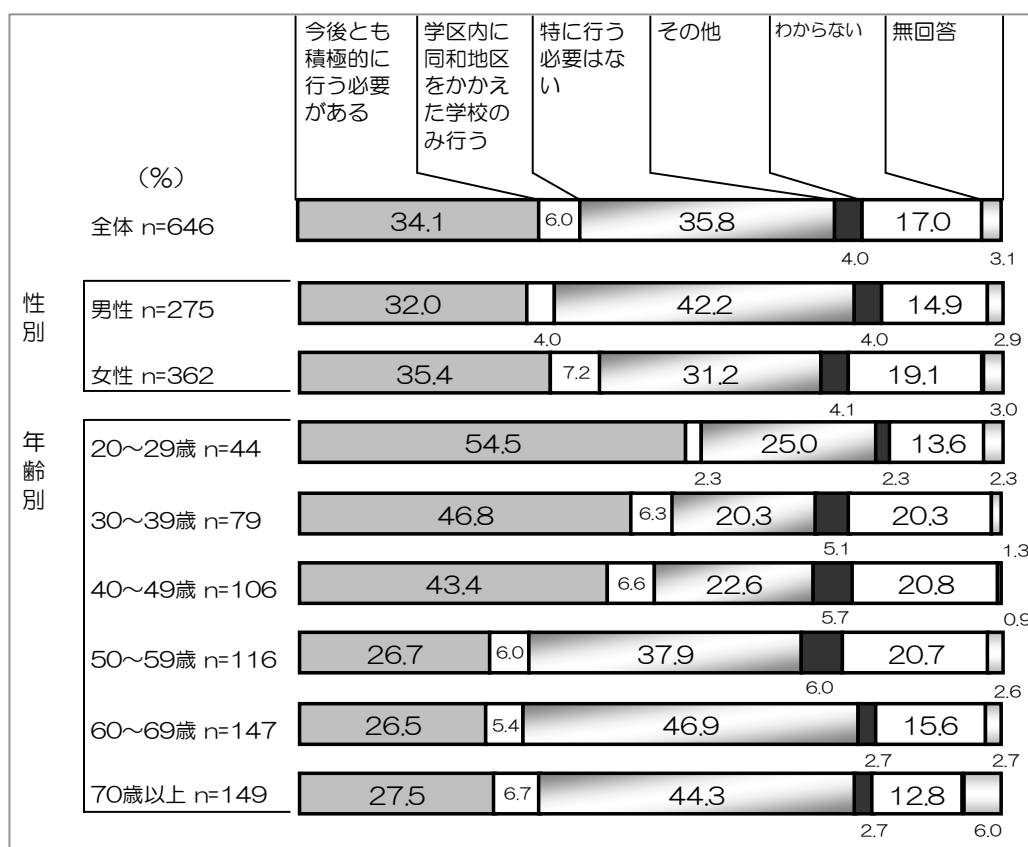
前回調査は無回答を除いた集計。

「結婚することに反対する」(前回調査 11.4%、今回調査 5.3%) は前回調査を下回り、「子どもの意思尊重」の傾向がやや強まりました。

(9) 同和問題解決の教育を今後も学校で行うべきか

問24 同和問題を解決するための教育を今後も学校で行うべきだと思いますか。

同和問題解決の教育について、学校で「特に行う必要はない」と「今後とも積極的に行う必要がある」が拮抗。50歳代以上で「特に行う必要はない」が上回る。



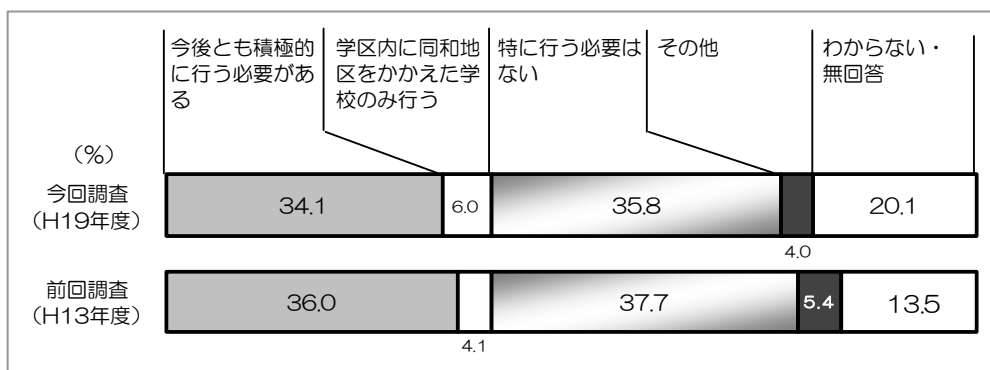
【全体】

「特に行う必要はない」(35.8%)と「今後とも積極的に行う必要がある」(34.1%)が3割を超え拮抗しています。次いで「学区内に同和地区をかかえた学校のみ行う」(6.0%)となっていますが、「わからない」も17.0%にのぼります。

【年齢別】

20歳代では「今後とも積極的に行う必要がある」(54.5%)が半数を超える一方で、50歳以上では「特に行う必要はない」が「今後とも積極的に行う必要がある」を上回っています。

前回調査との比較



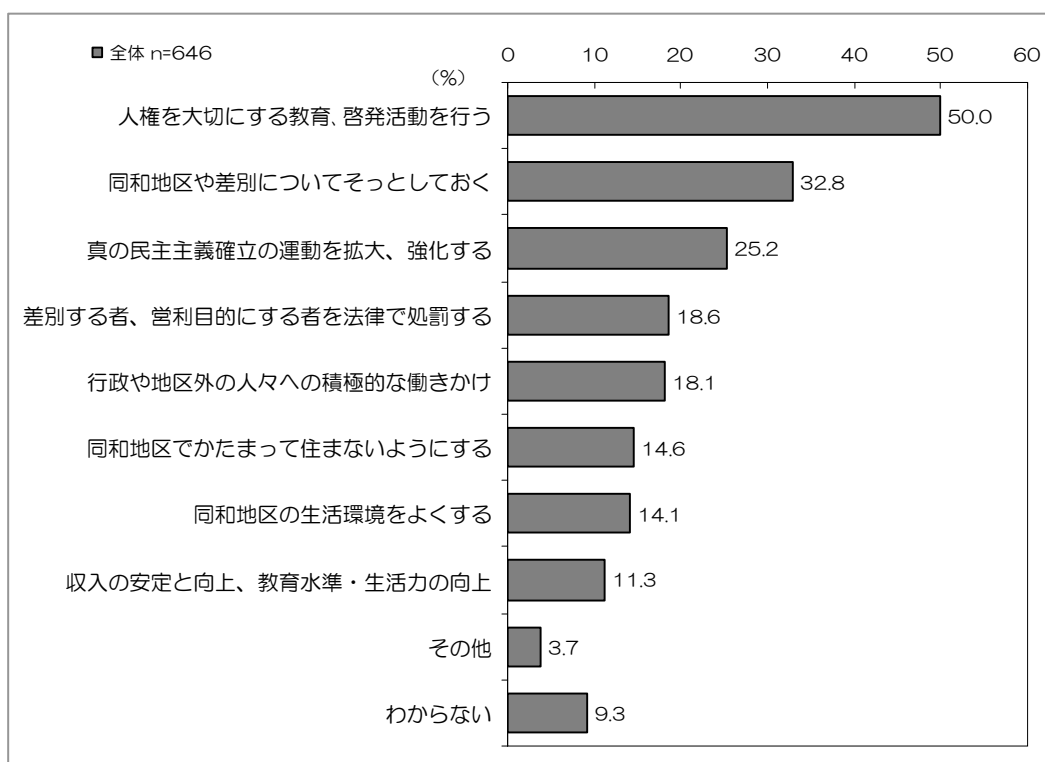
前回調査は無回答を除いた集計。

「わからない・無回答」が前回調査 13.5%に対し今回調査 20.1%となっています。

(10) 同和問題解決のために必要なこと

問25 同和問題を解決するには、どのようにしたらよいと思いますか。【複数回答】

同和問題を解決するには「人権を大切にする教育、啓発活動を行う」が半数にのぼり、最も多い。



(単位:人、%)

	合計	同和地区の生活環境をよくする	収入の安定と向上、教育水準・生活力の向上	行政や地区外の人々への積極的な働きかけ	人権を大切にす教育、啓発活動を行う	差別する者、営利目的にする者を法律で処罰する	住まないようにする	同和地区や差別についてそっとしておく	真の民主主義確立の運動を拡大、強化する	その他	わからない	無回答	
全体	646	14.1	11.3	18.1	50.0	18.6	14.6	32.8	25.2	3.7	9.3	1.5	
性別	男性	275	13.1	9.8	20.4	48.7	24.4	11.3	33.5	27.6	4.7	6.5	1.5
	女性	362	14.1	12.4	16.3	51.1	14.4	16.9	32.6	23.2	3.0	11.0	1.7
年齢別	20～29歳	44	13.6	13.6	6.8	59.1	18.2	6.8	36.4	11.4	0.0	4.5	0.0
	30～39歳	79	19.0	13.9	5.1	50.6	24.1	20.3	22.8	13.9	2.5	7.6	0.0
	40～49歳	106	23.6	16.0	15.1	55.7	22.6	11.3	28.3	22.6	6.6	6.6	0.9
	50～59歳	116	11.2	11.2	14.7	49.1	16.4	15.5	34.5	29.3	3.4	7.8	1.7
	60～69歳	147	8.8	7.5	21.1	39.5	16.3	11.6	36.7	23.8	6.1	15.6	1.4
	70歳以上	149	12.1	10.1	29.5	53.7	16.8	17.4	36.2	35.6	1.3	8.1	3.4

【全体】

「人権を大切にす教育、啓発活動を行う」(50.0%)が半数にのぼり、次いで「同和地区や差別についてそっとしておく」(32.8%)、「真の民主主義確立の運動を拡大、強化する」(25.2%)、「差別する者、営利目的にする者を法律で処罰する」(18.6%)、「行政や地区外の人々へ積極的な働きかけ」(18.1%)、「同和地区でかたまって住まないようにする」(14.6%)、「同和地区の生活環境をよくする」(14.1%)、「収入の安定と向上、教育水準・生活力の向上」(11.3%)が続いています。

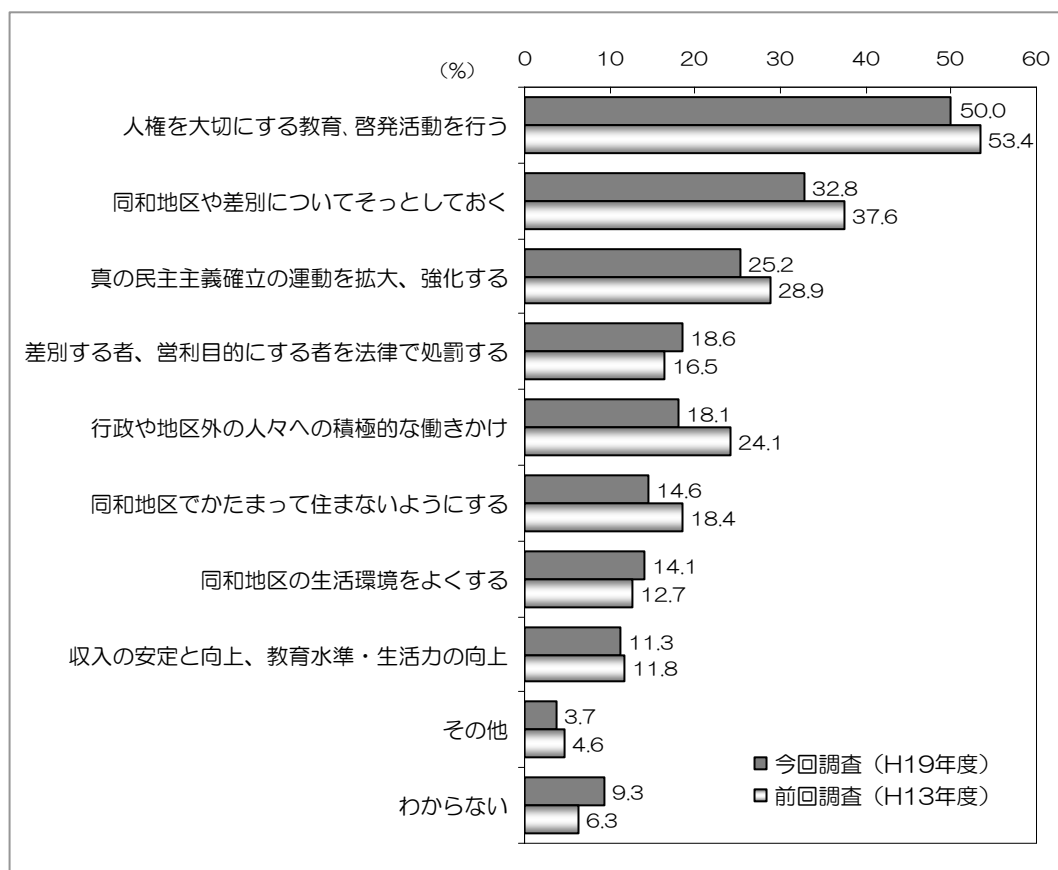
【性別】

「差別する者、営利目的にする者を法律で処罰する」について男性 24.4%、女性 14.4%と大きな差があります。また、「わからない」とするのは男性で 6.5%に対し女性で 11.0%と女性で回答を保留する人が多くなっています。

【年齢別】

「行政や地区外の人々へ積極的な働きかけ」については 20 歳代 6.8%、30 歳代 5.1%、また、「真の民主主義確立の運動を拡大、強化する」についても 20 歳代 11.4%、30 歳代 13.9%と、いずれも全体に比べ 30 歳代以下で大変低く、顕著な点となっています。

前回調査との比較



前回調査は無回答を除いた集計。

総じて大きな変化は見られませんが、「行政や地区外の人々へ積極的な働きかけ」(前回調査 24.1%、今回調査 18.1%) は前回調査を下回っています。